

志免町議第452号  
令和7年3月28日

志免町長 世利良末 殿

志免町議会  
議長 丸山卓嗣

厚生建設常任委員会  
委員長 岩下多絵

## 健康寿命延伸への取組みに関する提言書

### 1. 提言

- ・ 「健康増進宣言のまち」を掲げ、町全体で健康づくりに取り組むこと
- ・ 全年齢の健康増進のため、さらに全庁的に、課の連携・協働を強化した取組みを図ること
- ・ 今あるものを最大限に活かし、住民を巻き込んだ取組みの推進（志免スタイルの確立）に努めること
- ・ 産官学民の連携に努めフレイル予防に積極的に取り組むこと
- ・ 健康づくり拠点の設置について検討すること

### 2. 提言に至った背景と経緯

人生100年時代、町民が生涯にわたって健やかにいきいきと心豊かに暮らしていくためには、健康寿命の延伸と、生活の質の向上（QOLの向上）が必要である。

社会的問題の一つである人口の減少、その中でも、少子高齢化の波は、今後わが町にとっても深刻な問題である。

また、医療・介護の担い手不足、医療費・介護費の増大に伴う財政圧迫は、将来の世代への大きな負担となる。

これまで厚生建設常任委員会としても、令和5年9月の閉会中審査より、町の取組みの現状を確認し、県の健康増進課、篠栗町の健康課、千葉県柏市と船橋市、福岡工業大学への視察研修や、住民との意見交換会を2回行うなど、調査・研究を行ってきた。

健康づくりを推進することは、健康寿命の延伸につながり、医療費・介護費の削減となることはもちろん、支えられる側から支える側となることで、医療、介護へ費やしていた費用や時間は趣味や社会貢献に使うことができ、さらには、将来への不安も軽減でき、住民各々の生活の質の向上につながるため重要であると考えている。

しかしながら、健康づくりの推進は、個人の努力や、行政主導での取組みだけでは継続が困難である。そのため、行政と関係機関・団体・住民等が一体となり、健康づくりを「自分ごと」として捉え、総合的かつ効果的に推進することが肝要である。

当委員会での協議の結果として、フレイル予防と健康イベントを中心に、町民一人ひとりが健康で豊かな生活を送るため、環境の整備を図ることを提言します。